

第1回岡山県外国人材等支援推進協議会

日時：令和7年5月26日（月） 14:30～16:00

場所：ピュアリティまきび 白鳥

<発言要旨>

【開会】

岡山県産業労働部 宮本部長 あいさつ

【挨拶】

○出席委員、オブザーバーの紹介・挨拶

○事務局挨拶

○配布資料確認

【議題】

(1) 岡山県外国人材等支援推進協議会設置要綱（案）

○「資料1」について事務局（労働雇用政策課）から説明

→異議なし

(2) 会長・副会長の選出

○事務局案を提案

→異議なし

(3) 岡山県外国人材等支援推進条例について

○「資料2」について事務局（労働雇用政策課）から説明

→質疑なし

(4) 岡山県における外国人材の受け入れ状況等

○「資料3」について事務局（労働雇用政策課・国際課）から説明

★質疑・意見★

1. 委員：新型コロナウイルス感染症の流行前後で在留外国人数を比較するとどうなのか。

事務局：流行前は約3万1000人、現在は過去最高の約3万7000人と増加している。

委員：今後もこの数は増えていくのか。

事務局：今後も在留外国人数は増加すると考えている。

2. 委員：最近の県内大学生は関東圏よりも地元の岡山や、岡山から近く求人も多い関西圏を選ぶ傾向がある。これは留学生も同様だ。これは以前に比べ、岡山県にとっては人材獲得のチャンスだと思う。

委員：外国人留学生にとって、今の日本は円安で留学費用や生活費が安く済むため人気だと聞く。

委員：費用面に加え、日本は奨学金制度が充実しているため人気があるようだ。



4. 委員： 外国人材支援の中に「雇用の場の創出」という観点が必要だ。岡山県は工場が他県へ集約される側であると認識しており、企業誘致も重要だ。

5. 委員： ある市では外国人向け日本語教育を開催しており、「病院のかかり方」をテーマにした回が人気。医師会と連携しているが、土日開催時の報酬など費用負担などに課題がある。通訳の24時間体制にも限界があるため、県としての支援が必要。また、家族帯同で来日する外国人が増加しており、多文化共生日本語教室だけでは対応できないほどになっている。支援相談員など教育現場へのサポートも必要。

6. 委員： 今後、具体的な事業を検討するにあたっては、他県や市町村などの先行事例を参考にすることが有効。

～閉会～